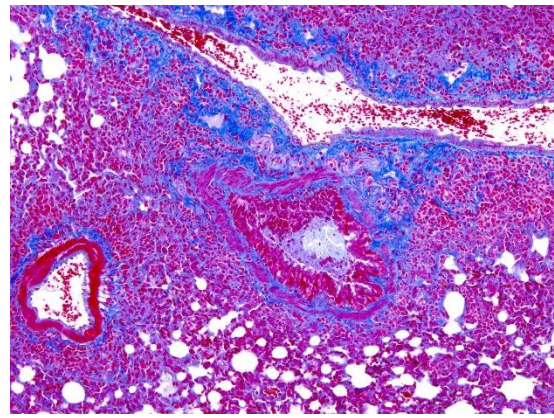


大学院特別セミナー

Bench-to-Bedside Study on Chronic Graft-versus-Host Disease



Chronic GVHD mouse



Pulmonary GVHD in mouse

YouTube
配信

日程

2021年9月27日（月）

～10月5日（火）17:00

講師

大沼 圭 准教授

所属

順天堂大学大学院医学研究科
免疫病・がん先端治療学講座

造血幹細胞移植（HSCT）は、毎年約2万人が発症している血液がんや先天性免疫不全・代謝異常症の有力な治療方法であるが、約60%の患者は血縁者にHLA適合ドナーが存在しないため、非血縁者間骨髓や臍帯血移植、さらにはHLAミスマッチ移植治療を行ってHSCTの拡大がはかられている。しかし、非血縁者間HSCTやHLAミスマッチ臍帯血移植による移植適応の拡大と移植成績の向上は長期生存者の増加をもたらしたが、これら長期生存者は必ずしも良質な生活の質（QOL）を保持しているとは言い難い。特に、慢性移植片対宿主病（GVHD）に伴う晩期合併症により日常生活動作（ADL）が妨げられ、QOLが低下している。ADL障害の原因は、炎症の慢性化に伴う肺の線維化による呼吸障害や皮膚硬化・関節障害による身体活動の重篤な制限である。慢性GVHDの標準治療はステロイド剤であるが、発症後2年以上の長期間の免疫抑制療法が必要で、長期投与に伴う副作用も多く、肺や皮膚の線維化の阻止効果も不十分で臓器障害が進行するため、HSCT患者のQOLの向上のためには、慢性GVHDの本質的な病態形成理論に基づいた根本的な治療法の開発が喫緊の課題である。私たちは慢性炎症のモデルとなるヒト免疫化マウスを用いて、慢性GVHDの病因、及び、慢性GVHDによる慢性閉塞性肺疾患様の肺障害、及び、皮膚硬化等を引き起こす慢性炎症及び組織線維化の分子メカニズムを解明し、革新的な治療法の開発基盤を構築してきた。これにより、従来の免疫抑制療法では日和見感染や成長障害等の副作用で十分な治療が受けられなかった小児慢性GVHD患者のみならず、造血幹細胞移植を受けた成人の慢性GVHD患者、さらには、心血管疾患や腎障害等の副作用で十分な免疫制御治療が難しかった高齢者にとっても、安全で有効性の高い新規分子標的療法を目指している。今回は、私たちが解明した肺の慢性GVHDにおける重要な因子について概説し、translational researchの成果を発表する。

本セミナーは、講演は日本語、スライドは英語です。また、大学院の認定単位の対象となります。受講を希望する場合は、医薬系学務課までご連絡ください。

医薬系学務課 内線：7657 E-mail: mpin@adm.u-toyama.ac.jp

担当：富山大学附属病院血液内科 佐藤 勉（内線7232）